

天童市立長岡小学校 第3回校内授業研究会
「自他のよさに気づき、
豊かな生活を創りだす子ども」

◎2008年(平成20年)
中央教育審議会 答申

基本的な考え方

- ① 改正教育基本法等を踏まえた学習指導要領改訂
- ② 「生きる力」という理念の共有
- ③ 基礎的・基本的な知識・技能の習得
- ④ 思考力・判断力・表現力等の育成
- ⑤ 確かな学力を確立するために必要な授業時数の確保
- ⑥ 学習意欲の向上や学習習慣の確立
- ⑦ 豊かな心や健やかな体の育成のための指導の充実

◎特別活動の改善の基本方針

○自分に自信がもてず、人間関係に不安を感じていたり、好ましい人間関係を築けず社会性の育成が不十分であったりする状況が見られたりすることから、それらにかかわる力を実践を通して高めるための体験活動や生活を改善する話し合い活動、多様な異年齢の子どもたちからなる集団による活動を一層重視する。特に体験活動については、体験を通して感じたり、気付いたりしたことを振り返り、言葉でまとめたり、発表し合ったりする活動を重視する

(体験活動・言語活動の重視)

◎特別活動の目標

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、**自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う。**

「人間関係」
「自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う」を加えた

〔学級活動〕

1 目標

学級活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。

〔学級活動〕

2 内容

〔第1学年及び第2学年〕

学級を単位として、仲良く助け合い学級生活を楽しくするとともに、日常生活や学習に進んで取り組もうとする態度の育成に資する活動を行うこと。

〔第3学年及び第4学年〕

学級を単位として、協力し合って楽しい学級生活をつくとともに、日常生活や学習に意欲的に取り組もうとする態度の育成に資する活動を行うこと。

〔第5学年及び第6学年〕

学級を単位として、信頼し支え合って楽しく豊かな学級や学校の生活をつくとともに、日常生活や学習に自主的に取り組もうとする態度の向上に資する活動を行うこと。

〔学級活動〕

〔共通事項〕

(1) 学級や学校の生活づくり

- ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決
- イ 学級内の組織づくりや仕事の分担処理
- ウ 学校における多様な集団の生活の向上

(2) 日常生活や学習への適応及び健康安全

- ア 希望や目標をもって生きる態度の形成
- イ 基本的な生活習慣の形成
- ウ 望ましい人間関係の形成
- エ 清掃などの当番活動等の役割と働くことの意義の理解
- オ 学校図書館の利用
- カ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成
- キ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

☆学級活動

- ① 学級や学校の生活づくりについては、自らよりよい生活を築くために合意形成をする話し合い活動や自分たちでルールをつくって守る活動などを一層重視した。

また、自らよりよい学級生活の実現に取り組む意欲をはぐくむとともに、集団の一員としての自覚や責任感を高め、勤労を重視する観点から係活動とともに、日常の清掃などの当番活動も計画的に指導できるようにした。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

- (1) [学級活動]、[児童会活動]及び[クラブ活動]の指導については、指導内容の特質に応じて、教師の適切な指導の下に、児童の自発的、自主的な活動が効果的に展開されるようにするとともに、内容相互の関連を図るよう工夫すること。また、よりよい生活を築くために集団としての意見をまとめるなどの**話し合い活動**や**自分たちできまりをつくって守る活動**、**人間関係を形成する力を養う活動**などを充実するよう工夫すること。

「学級活動」とは？

＝学級活動は、個々の児童の個性の伸長と人格形成に関わり、
かつ
望ましい人間関係をつくりながら
学級や学校の生活への適応を図る活動

1 学級活動の「課題」とされること

1997年「教育課程審議会 中間まとめ」
→「学級(ホームルーム)活動では、教師の指導の下では活発に活動するが、児童生徒が自主的に集団生活上の問題を解決するなどの点においては必ずしも十分な状況ではない。」(児童の自発的・自主的な活動が十分ではない)

1 学級活動の課題

考えられる理由：

①児童にとって、学級活動の内容が切実ではなく、「やらされる活動」になっている。
→児童が自らの意志で、学級や学校の中の生活の充実を目指していく中で、集団に共通する課題を見つけ、その課題の達成のために活動する過程において、社会性を身につけたり、自分らしさに気付いたりすることである。

1 学級活動の課題

考えられる理由:

②児童に、自発的・自治的活動を行いながら、自らの生活を充実したものにしていける文化が十分に醸成されていない。

→一人ひとりの日常的生活経験に照らし合わせ、それを基盤にして考えると同時に、その集団を構成するメンバー全員の意志を共有することで文化を作り上げていくという高い意識が必要となる。

2 学級活動を通して、自発的・自治的に生活を作り上げる能力を高めるために必要な要素

①取り組むべき課題が、集団にとって明確である。また、それを解決するための目標や内容・方法、それに向かうための役割やルールなどが共有されている。

Research

2 学級活動を通して、自発的・自治的に生活を作り上げる能力を高めるために必要な要素

②活動の計画・実施・評価・改善などの過程が明確で、それに児童自身が責任をもってかかわることができるようになっている。

Research Plan Do Check Action

2 学級活動を通して、自発的・自治的に生活を作り上げる能力を高めるために必要な要素

③活動の結果が適切な時間にもたらされ、それにより活動の評価ができる。また、その時点での成就感(もしくは不足感)が得られる。

Check=分析

2 学級活動を通して、自発的・自治的に生活を
 作り上げる能力を高めるために必要な要素

④必要に応じてサポートを
 受けられたり、協力体制を
 もったりできる。

担任・他の教師・友達・他学年・専門家

2 学級活動を通して、自発的・自治的に生活を
 作り上げる能力を高めるために必要な要素

⑤活動の成果によって、
 生活が確実に変化したと
 いう実感が得られる。

3 学級活動での話し合い活動を指導す
 るために

①生活の中から、児童に話し合うべき
 課題を考えさせるための手立て

A) 話し合う課題の題材を集める

- ・全員からの意見
- ・班での意見(班長会議)
- ・日直ノート
- ・グループノート
- ・提案箱
- ・振り返りノート
- ・概念化シート

3 学級活動での話し合い活動を指導す
 るために

①生活の中から、児童に話し合うべき
 課題を考えさせるための手立て

B)「運営委員会」(もしくは「企画委員
 会」等)のメンバーで出てきた内容を
 整理し、課題の案を作成する。⇔教
 師との事前の話し合い

3 学級活動での話し合い活動を指導するために

①生活の中から、児童に話し合うべき課題を考えさせるための手立て

c)学級への提案を行う。
(ある程度絞った上で複数示す)
→承認→話し合い



3 学級活動での話し合い活動を指導するために

②話し合いを全体・個人の両レベルで参加しやすい条件を整える。

A)児童に司会・書記の心得をもたせる。
(司会者の心得)

1. 公平、平等な態度
2. 親切な態度、丁寧ではっきりした言葉
3. 全員の状態を観察しながら進める。
4. 姿勢を正して行う。



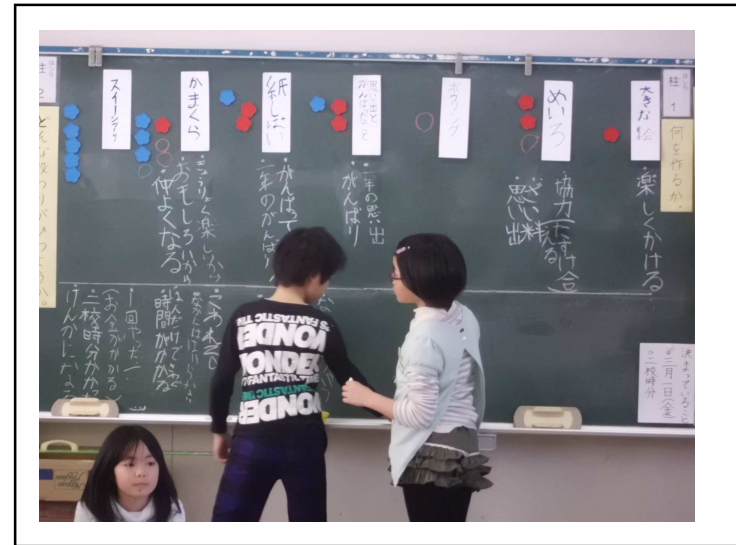
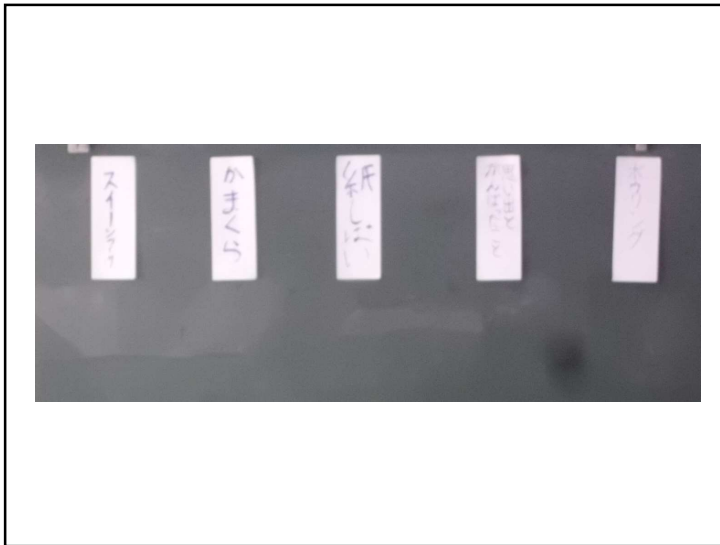
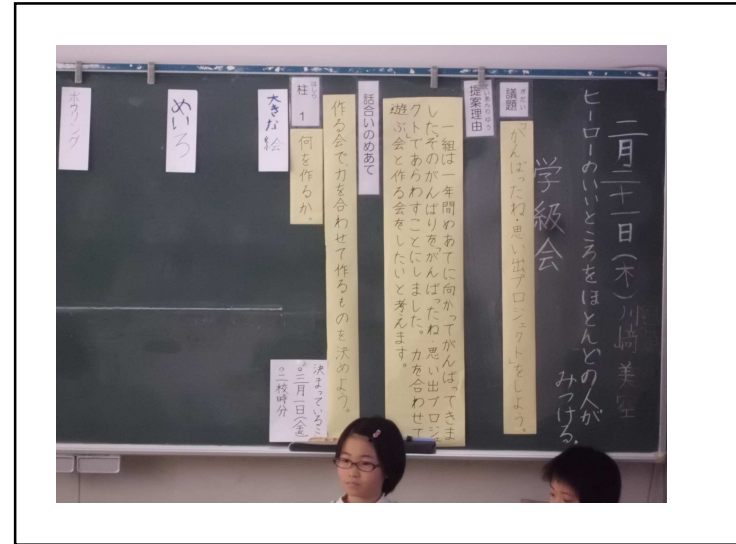
3 学級活動での話し合い活動を指導するために

② 話し合いを全体・個人の両レベルで参加しやすい条件を整える。

A) 児童に司会・書記の心得をもたせる。

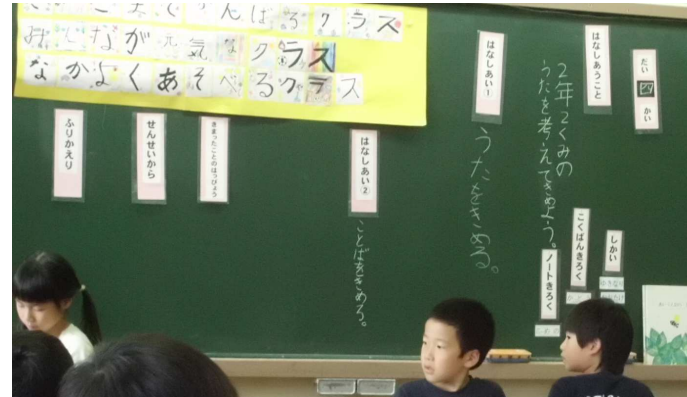
(書記の心得)

1. 決定事項と意見等は明確に分けて
2. 司会から指示されたときに書く。
3. 要点を意識し、箇条書き
4. 板書しない時には移動しない。
5. 司会の許可なく発言しない。
6. ノート記録者の場合もこれに準ずる。

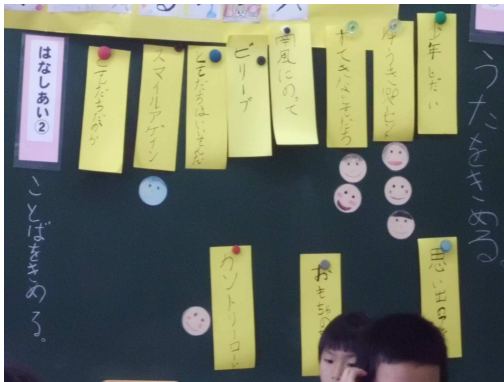




意図的・計画的な 黒板の掲示物



「賛成」と「反対」を示す顔のカード
これで意見の数が一目瞭然



反対意見しかなかったものは
確認をしながら外していく。



はずされた意見は、
「ありがとう」フォルダにしまっておく。

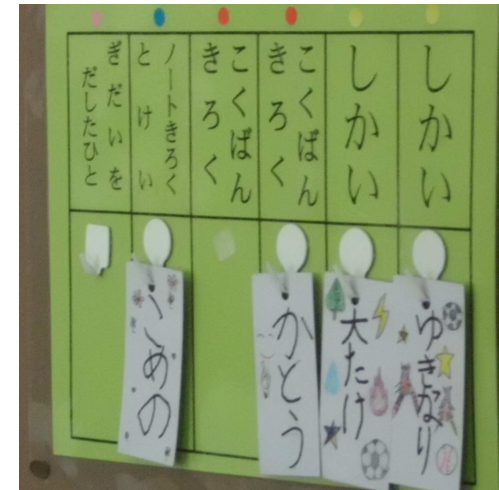
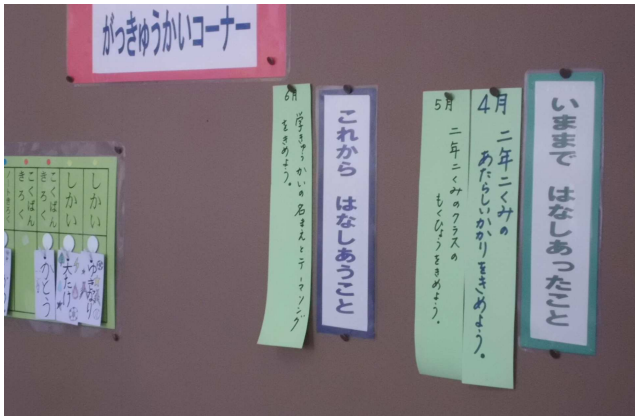


3 学級活動での話し合い活動を指導するために

② 話し合いを全体・個人の両レベルで参加しやすい条件を整える。

B) 掲示板等への情報の出し方
(事前に一定期間情報を提示する)

- ・話し合う課題名
- ・課題を話し合う理由(必要性)
- ・話し合う課題の順序
- ・学級活動を行う当日までに準備してもらいたいこと
(考えておいてほしいこと)

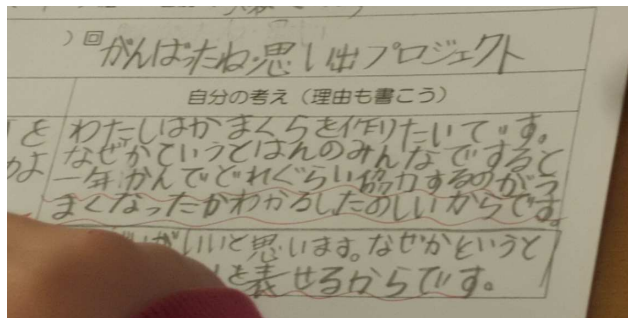
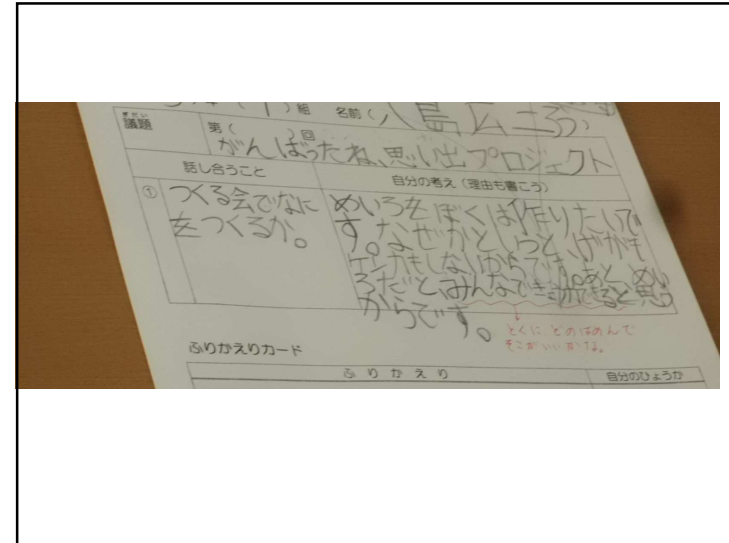


3 学級活動での話し合い活動を指導するために

② 話し合いを全体・個人の両レベルで参加しやすい条件を整える。

C) ワークシート等を示す

- ・全員が話し合い活動に参加している意識をもたせる。
- ・何が論点であるのかを明確にする。
- ・当日の進行や話し合い活動の評価をする。



3 学級活動での話し合い活動を指導するために

③ 教師の役割として

- ・児童と事前に連絡調整をしながら、内容の検討をする。**(議題内容の分析・検討)**
- ・進行を見ながら、話し合いの活性化を図る
(雰囲気をはぐす。評価する)
- ・内容に応じては、司会に的確な助言を与えて、全員の自発的・自治的な活動をより推進するような指導を行う。

3 学級活動での話し合い活動を指導するために

③ 教師の役割として

- ・議題の内容によっては、「全体の司会」、「議事を執り行う議長」のように役割を分担する。
- ・議題が抽象的な場合などは、具体的な資料を示すことを支援する。
例：第三者の体験談や専門家の意見を示す(実際にゲストとして招く。ビデオ等)
:具体的な事例の写真やビデオ等を示す。

3 学級活動での話し合い活動を指導するために

③ 教師の役割として

- ・各種の様態の話し合い活動を用意しておき、内容に応じて使い分ける。
例：ディベート、パネルディスカッション、ロールプレイング、体験発表 等
- ・話し合いの際の座席の位置について工夫する。
例：一斉型、コの字型、グループ型

配慮すべき事項

- ①生産的な話し合いになることを絶えず意識させること
→人間関係を損なうような対立を生みだすことが目的ではない。あくまでいくつかの視点に沿って、さまざまな可能性がある中でよりよい選択をするための活動であることを全員に理解させる。

配慮すべき事項

②「多数決」に頼らない集団決定の意識をもたせる。

→意見を出す

→出された意見を様々な観点から比較する

→まとめる

→決定する

思考・判断・表現

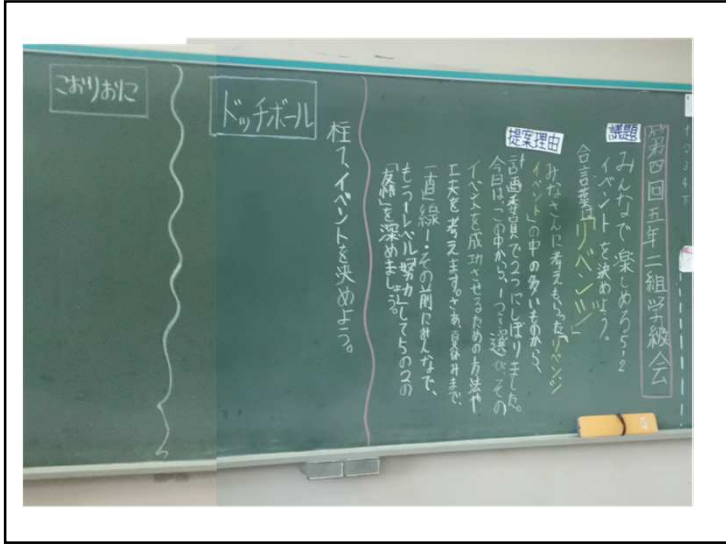
配慮すべき事項

③決定したことを尊重し、全員が協力して実行する、ということを確認する。

→「何のための話し合いか」ということを絶えず意識させる。

→学級活動の後に、変化が見られた時などに、児童に自己評価・相互評価を実施すると「学級活動をやってよかった」「次回はこのことを話し合おう」という態度が形成される。









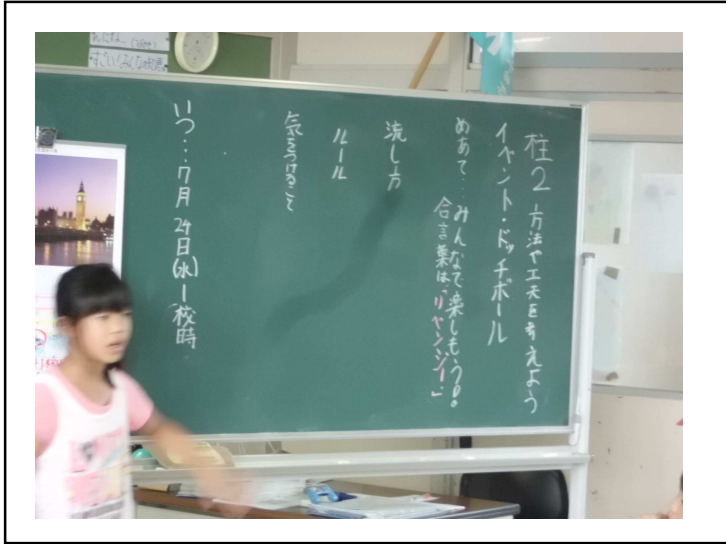








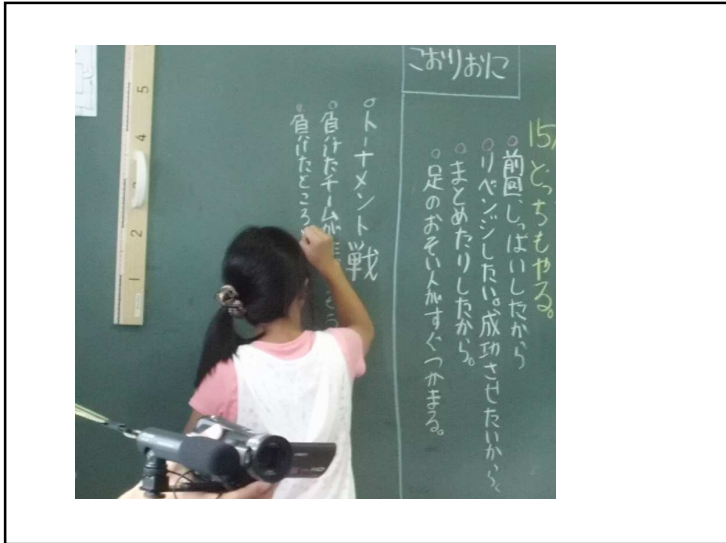






















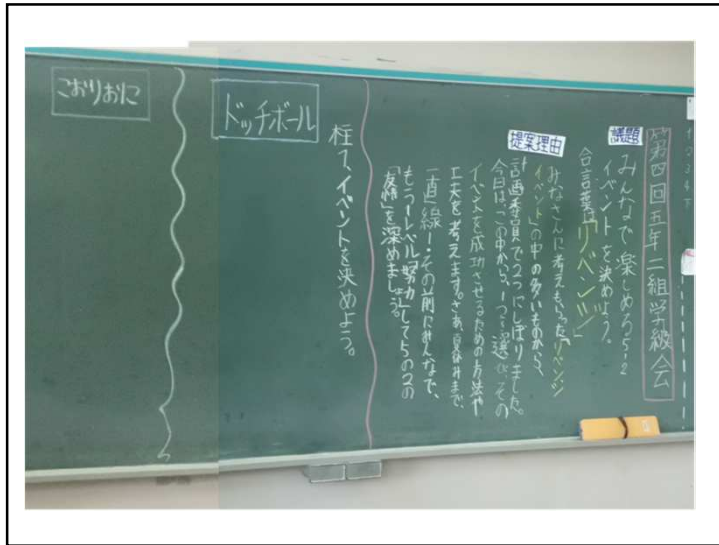




2 学級活動を通して、自発的・自治的に生活を
作り上げる能力を高めるために必要な要素

① 取り組むべき課題が、集団に
とって明確である。また、それを
解決するための目標や内容・方
法、それに向かうための役割や
ルールなどが共有されている。

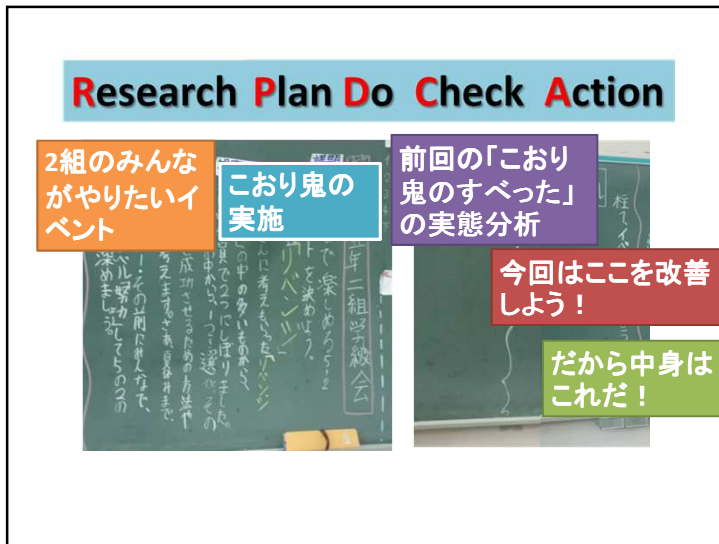
Research



2 学級活動を通して、自発的・自治的に生活を
作り上げる能力を高めるために必要な要素

②活動の**計画・実施・評価・改善**
などの過程が明確で、それに児童
自身が責任をもってかかわる
ことができるようになっている。

Research Plan Do Check Action

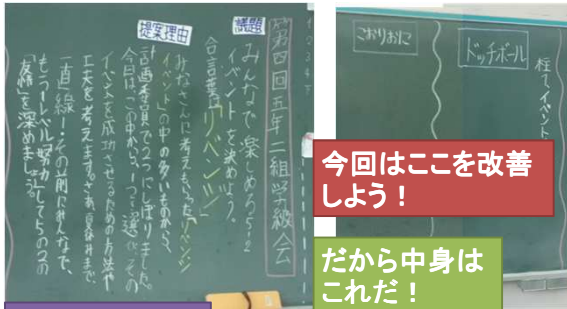


2 学級活動を通して、自発的・自治的に生活を
作り上げる能力を高めるために必要な要素

③活動の結果が**適当な時間**にも
たらされ、それにより活動の**評価**
ができる。また、その時点での成
就感(もしくは不足感)が得られる。

Check=分析

Research Plan Do Check Action



今回はここを改善しよう！

だから中身はこれだ！

前回の「ごおりおにのすべった」の実態分析

3 学級活動での話し合い活動を指導するために

③ 教師の役割として

- ・児童と事前に連絡調整をしながら、内容の検討をする。(議題内容の分析・検討)
- ・進行を見ながら、話し合いの活性化を図る(雰囲気をはぐす。評価する)
- ・内容に応じては、司会に的確な助言を与えて、全員の自発的・自治的な活動をより推進するような指導を行う。

ドッチボールは外野から復活できる。



ドッチボールはうまくとれない人もいたり、投げられない人もいる。



こおり鬼も鬼にずつとなることがあります。



今、イベント係りではルールを考えていて、ずっと鬼にならないようにしようと思っています。



ドッチボールは外野から復活できる。

ドッチボールはうまくとれない人もいたり、投げられない人もいる。

こおり鬼も鬼にずつとなることがあります。

今、イベント係りではルールを考えていて、ずっと鬼にならないようにしようと思っています。

進行を見ながら、話し合いの活性化を図る
(雰囲気をはぐす。評価する)

こおり鬼・ドッチボール

この場面では、それぞれの遊びの「機能性」を同じ軸(復活できるか否か:みんなが楽しめるか否か)で比較思考をしている。

それに対して「イベント係り」から対応策(変数)が出されている。

新たな可能性から思考を促している。

これらの思考の軸を整理する必要。

こおり鬼・ドッチボール

それぞれの遊びの「機能性」を同じ軸(復活できるか否か:みんなが楽しめるか否か)で比較思考。

整理された上で、本質的な議論を重ねて、それを基に個人の判断をする場面を設定→「なるほど」が多数を占める。

→決定する

→拮抗しているときには「多数決」

(議論が十分であれば結果を納得できる)